報道関係者　各位

令和8年 10 月 20 日
宗像市脱炭素社会推進課

# 脱炭素・農福連携・電力の地産地消を同時進行中！
# 営農型太陽光発電農地で園児 50 人が収穫体験

宗像市では、脱炭素社会の実現に向け、太陽光発電と農業を両立する「営農型太陽光発電」を推進しています。その取り組みの一つとして、正助ふるさと村の農地では、再生可能エネルギーの創出に加え、有機農業や障がいのある人の就労を組み合わせ、脱炭素と農福連携に取り組んでいます。また、発電した電力は市内のJAむなかたの施設に供給し、電力の地産地消を進めています。

10月26日（月）と11月2日（月）は、この農地で耕作を担うオーガニックパパ株式会社主催で、東郷信愛幼稚園の園児がサツマイモを収穫します。


《営農型太陽光発電設備》


《サツマイモ苗の植え付け》

【サツマイモ収穫作業の概要】
日　時：10月26日（月）、11 月 2 日（月） いずれも11:00～11:20
※天候により変更する場合があります。
場　所：正助ふるさと村農園管理事務所付近の農地
※農地が奥まった場所にあるため、正助ふるさと村農園管理事務所（大駐車場）に集合いただければ、現地までアテンドします。
参加者：東郷信愛幼稚園の園児 （各日 50 人）
オーガニックパパ株式会社 （3 人）
株式会社アグリツリー （3 人）

【本事業の特徴】
宗像市では、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言しています。その実現に向けた取り組みの一つとして、農地での営農を継続しながら、農地の上部に設置した太陽光パネルで発電を行う「営農型太陽光発電」を推進しています。 令和8年1月1日から、当該地で発電した電力をJAむなかたパッケージセンターに供給し、再生可能エネルギーの地産地消にも取り組んでいます。

また、障がい者雇用に取り組むオーガニックパパ株式会社が有機農業を行い、農業と福祉の連携を進めています。

【問い合わせ先】※ご取材いただける場合は、事前にご連絡ください
宗像市脱炭素社会推進課　　担当：橋本　TEL：0940-36-9875